

## 介護福祉士資格取得の意志 n=50名

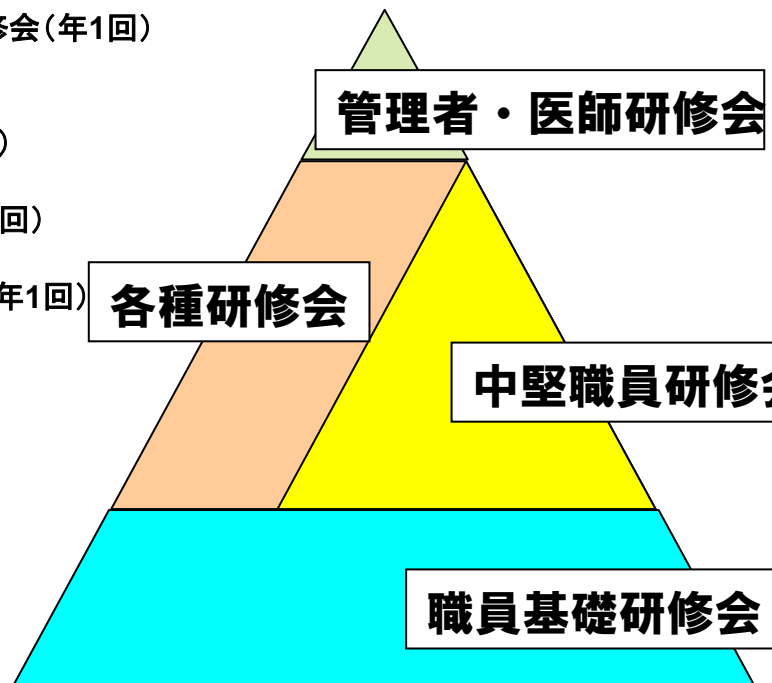


対象者：現在2級・1級ヘルパー資格の50名  
資格を取得しない理由：時間が無い・金銭的メリットがない

- 現状の取得基準・就労条件では上級資格を目指す意識を持つ者は少なく、最低資格を「介護福祉士」とする施策はかなり難しい。

# 全老健主催の研修会(年間30本以上)

認知症ケア研修会(年3回)  
 ケアプラン施設内養成指導者研修会(年1回)  
 リハビリテーション研修会(年4回)  
 リスクマネジメント研修会(年1回)  
 リスクマネジャー養成講座(年4回)  
 安全推進セミナー(年2回)  
 施設内感染症指導者研修会(年1回)  
 摂食・嚥下・栄養セミナー(年1回)  
 高齢者ケアプラン策定実践講座(年1回)  
 看護職研修会(年1回)  
 在宅支援研修会(年1回)  
 会計に関するセミナー(年数回)  
 実地研修(全国89カ所)



- ・認知症短期集中リハ研修(医師対象)(年数回)
- ・医師研修会(年1回)
- ・管理者(職)研修会(年2回)
- ・老健医療研究会(年1回) 等々

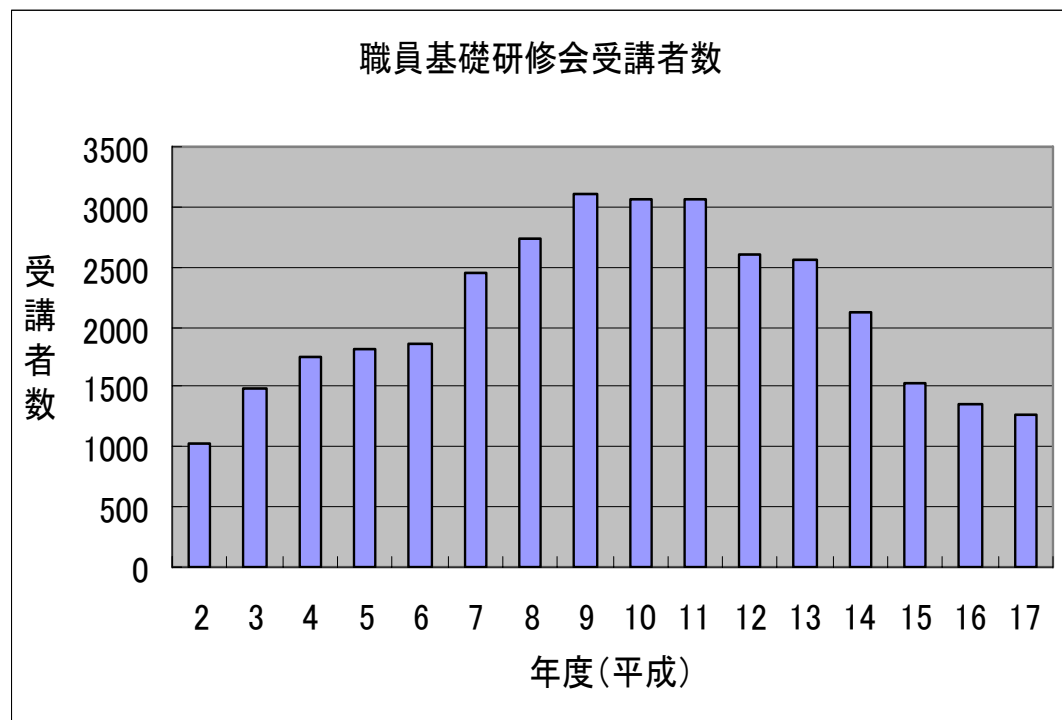
老健勤務年数5年以上  
(年5回)

老健勤務年数2年未満  
(年5回)

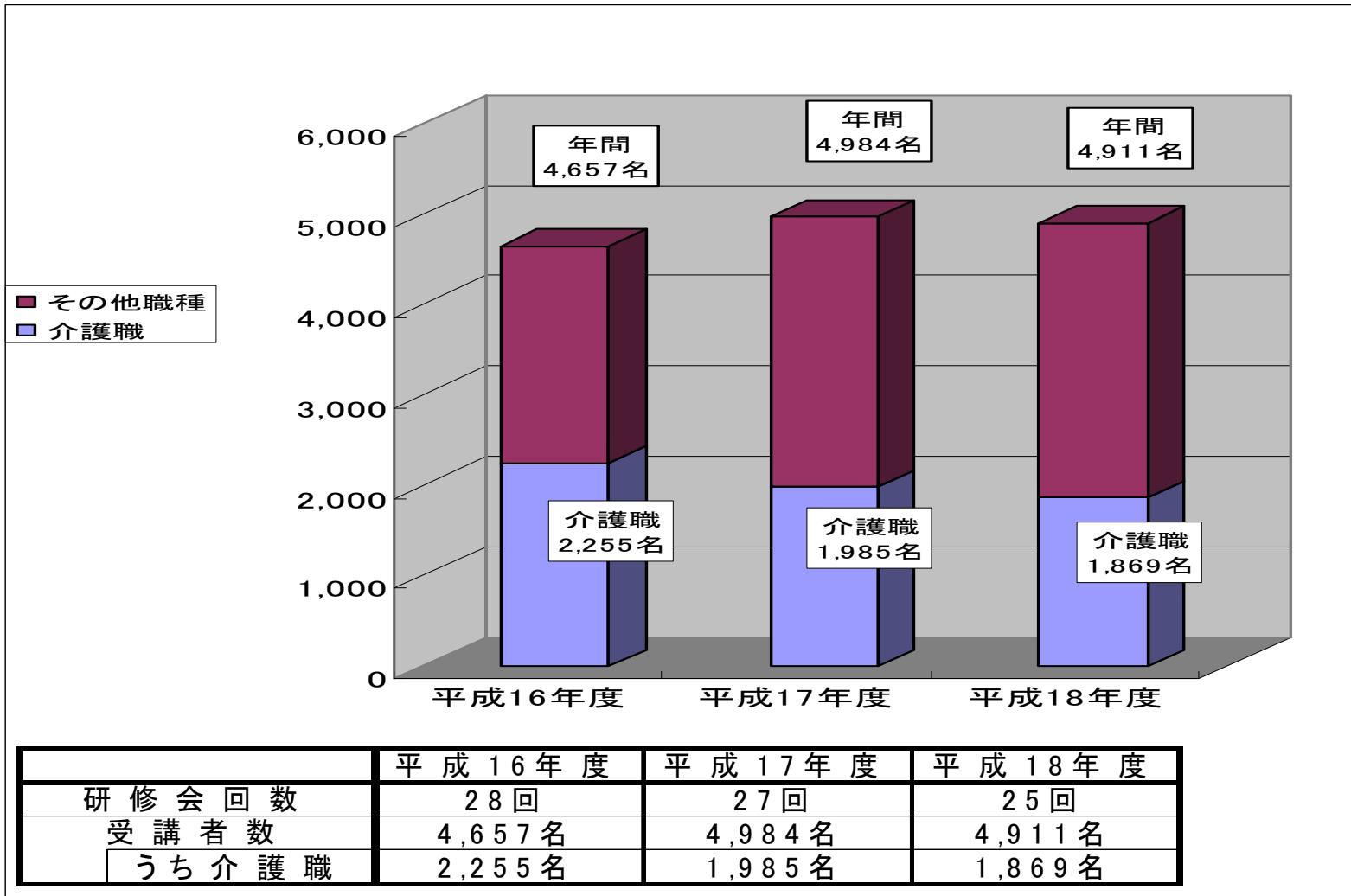
# 全老健研修事業「職員基礎研修会」

平成2年度から研修事業に取り組み、理念教育・基礎的知識の習得等を目的とした『職員基礎研修会』は18年間に延べ98回開催し、総受講者は、約36,000名を数える。

平成 2年度	1,025 名
平成 3年度	1,487 名
平成 4年度	1,740 名
平成 5年度	1,818 名
平成 6年度	1,849 名
平成 7年度	2,441 名
平成 8年度	2,732 名
平成 9年度	3,106 名
平成10年度	3,073 名
平成11年度	3,065 名
平成12年度	2,613 名
平成13年度	2,565 名
平成14年度	2,128 名
平成15年度	1,537 名
平成16年度	1,361 名
平成17年度	1,267 名
平成18年度	976 名
平成19年度	1,115 名



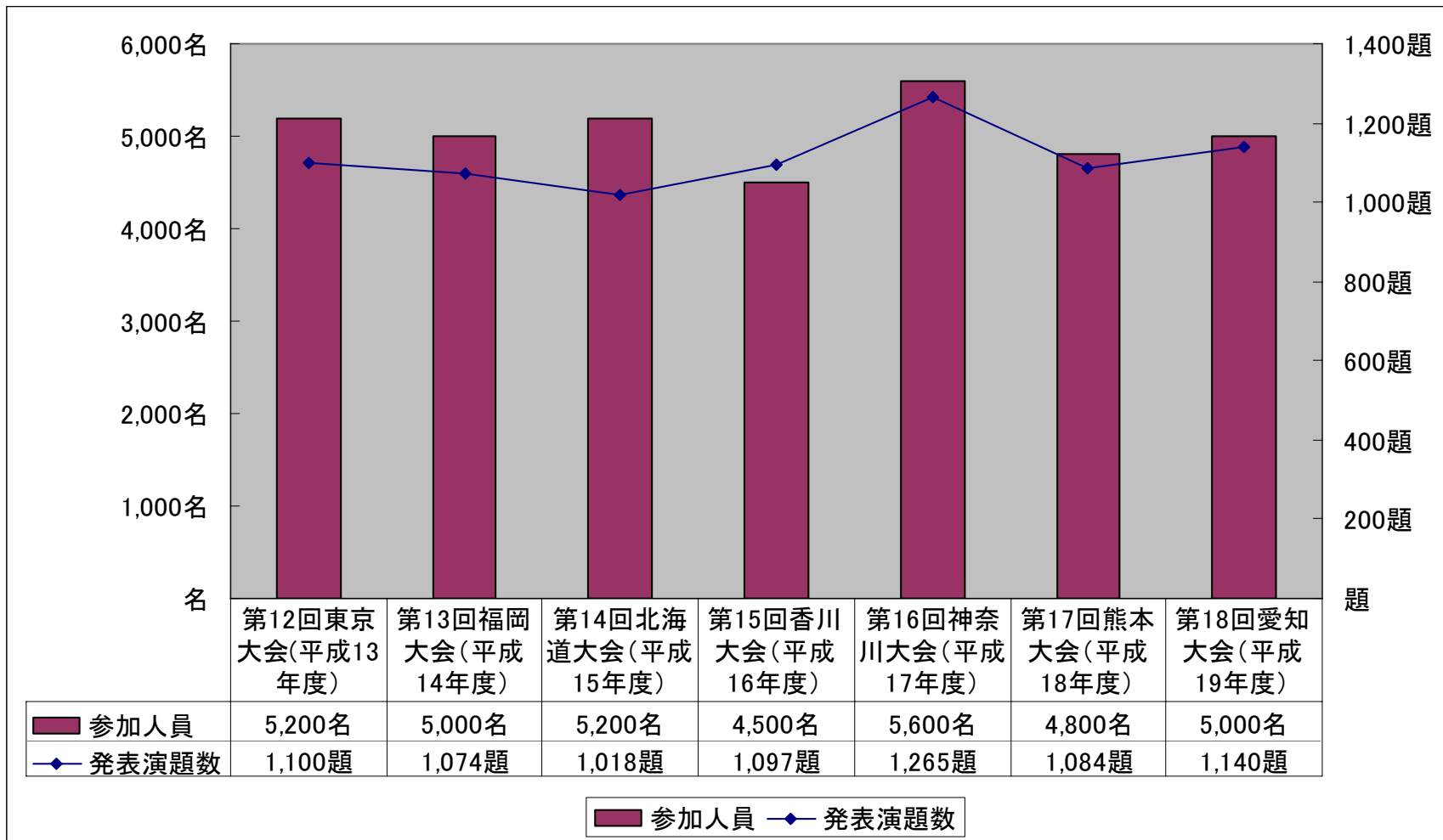
# 全老健の主な研修会の受講者数



	平成16年度	平成17年度	平成18年度
研修会回数	28回	27回	25回
受講者数	4,657名	4,984名	4,911名
うち介護職	2,255名	1,985名	1,869名

毎年約5,000名の職員が各種研修会に参加している

# 全老健全国大会の参加者数と発表演題数



質の高い高齢者の介護に寄与することを目的に  
 全国から毎年約5,000名の職員が一堂に会し相互研鑽をはかっている。

# 結 語

- 労働人口が減少する中で、今後さらに介護人材不足は深刻となる。人命に直結する職種に対しては最優先して対策が講じられなければならない。
- 介護福祉士資格取得者20万人(全体の4割強)は就労していない。これでは資格として存在する意味が無い。
- 最大の問題は、介護業務に対する国・社会(国民)の評価が余りに低いことである。年々スキルアップを要求され、責任は重くなるにもかかわらず、それに見合う対価は全く考慮されていない。
- あらたに導入される介護福祉士資格取得のための600時間研修を否定はしないが、現場の資格取得への意欲等を考慮し、現実的に受講可能な仕組みを作る必要がある。当然、要求しただけの報酬は用意すべきである。

**⇒いい加減に介護職の真心や、経営者の努力に頼るのはやめて  
いただきたい。**

**今、介護職は要支援状態である！！**